

資料と公共性 : 2019年度研究成果年次報告書

岡崎, 敦

九州大学大学院人文科学研究院 : 教授

藤川, 隆男

大阪大学大学院人文科学研究科 : 教授

市澤, 哲

神戸大学大学院人文科学研究科 : 教授

松田, 陽

東京大学大学院人文社会系研究科 : 准教授

他

<https://doi.org/10.15017/2557155>

出版情報 : 2020-03-06. 九州大学大学院人文科学研究院

バージョン :

権利関係 :

0. 「資料と公共性」共同研究の趣旨と 2019 年度の活動

0. はじめに

本報告書は、2018 年度（平成 30 年度）より 3 カ年の予定で、科学研究費補助金の助成を受けて活動中の共同研究について、2019 年度の研究成果の一部をまとめたものである。ここでは、共同研究の趣旨と 2019 年度の活動を提示する。

1. 全体の要旨

本共同研究は、国際化、情報化の急速な進展のなか、歴史資料を初めとする文化遺産を、「公共的」観点から公正かつ適正に管理と利活用するあり方について、理論的かつ実践的に研究することを目的とする。

国際化、情報化が進行する世界、社会において、歴史資料を文化遺産として利活用しようという動きが進んでいる。他方で、かつて国民国家が保証してきた公的な資料管理の基盤が、さまざまな点で揺らいでいる。いま、歴史資料、文化遺産を管理、保存、利活用する「主体」や「責任」について、従来とは異なる議論が必要である。

本研究の目的は、

1) 公共空間における文化遺産の利活用、管理、継承についての理論的、実践的基盤を再検討すること、

2) 文化遺産・情報資源の公共的な利活用、管理、保存を保証するための専門情報管理機関の再定義、実際にその業務を担う情報管理専門職のあり方、教育、学位制度、キャリア形成等の諸問題について、新しい視野から提言すること、である。

そこでは、激変する世界の動向に目を拓き、業界を越えた認識の共有を目指すこと、グローバルな情報化の動きに連動しながら、文化遺産、歴史資料管理の新しいステージを目指して、「公共空間」における専門知のあり方を再定義することも必要となる。「過去を遺し、今を伝える」公正な基盤作りに寄与することを目指すこの研究は、専門知のなかに充足する狭義の学問研究や、特定の社会的成果に奉仕する政策的研究とは異なり、教育と職場、情報の共有と責任などの関係に関わっている。

2. 2019 年度の活動と本報告書

2019 年度は、関連する学界動向の調査、検討を進めるとともに、3 回にわたるシンポジウム、研究会、講演会を企画、開催した。

第 1 回研究会（シンポジウム）

2019 年 4 月 13 日（土） 14 時～17 時 30 分

九州大学西新プラザ 大会議室 A

シンポジウム「公共歴史学、公共考古学の射程 —歴史実践と資料」

共催 九州西洋史学会（2019年度春季大会）、九州歴史科学研究会
プログラム

岡崎敦 「趣旨説明」

藤川隆男 「21世紀の歴史学とパブリック —IMBY/【インターネット・アニメ・モノ・アート・デジタル】・ヒストリー」

村野正景 「中米のパブリック考古学と博物館学の動向」

第2回研究会

2019年11月2日（土） 13時～17時30分

九州大学西新プラザ 多目的室

研究会「パブリックアーケオロジの射程：背景、成立、現状」

プログラム

村野正景 「趣旨説明」

松田陽 「パブリックアーケオロジの成立と展開」

岡村勝行 「欧州現代考古学の近年の動向」

第3回研究会（講演会）

2019年12月7日（土） 15時～17時30分

学習院大学中央棟 301

講演会「フランスにおけるアーキビスト養成（過去、現在、未来）：学問的、社会的および政治的課題」

主催 学習院大学大学院 人文科学研究科 アーカイブズ学専攻

共催 学習院大学文学会

後援 内閣府、独立行政法人国立公文書館、日本アーカイブズ学会

プログラム

オリヴィエ・ポンセ「フランスにおけるアーキビスト養成（過去、現在、未来）：学問的、社会的および政治的課題」

本報告書では、研究会・シンポジウムでの報告要旨、および本書のために新たに書きおこされた論考を掲載した。研究会・シンポジウムで提出された報告は、いずれも鋭利な問題関心と作業の精緻さの両面で、個別の業績としての価値を有するものであるが、この報告書は、活動成果の速報とともに、個別論考をあらたに掲載することで、共同研究活動のドキュメントという性格も有している。その成果と価値については、読者諸兄弟のご意見、ご批判を待ちたい。最後に、研究会活動および報告書作成という共同事業に、積極的にご関与いただいた方々に、研究代表者として、あらためて御礼申し上げる。

（岡崎敦）